

平成22年度事業報告会

2010鰻絵フェステバル

旧北陸道まちなみアート
in こすぎ実行委員会

開催日 平成23年4月15日 19:00から

発表者 森永 醸治

⑤

2000年(富山国体に向けて)

⑤ 第

目的

国体を契機に訪れる県内外の方に、小杉の町を覚えてもらう為の企画。
記憶に残る小杉の町の演出を、まちなみ・まちづくり研究協議会から各NPO団体
働きかけ、国体の成功に寄与したい。

コンセプト

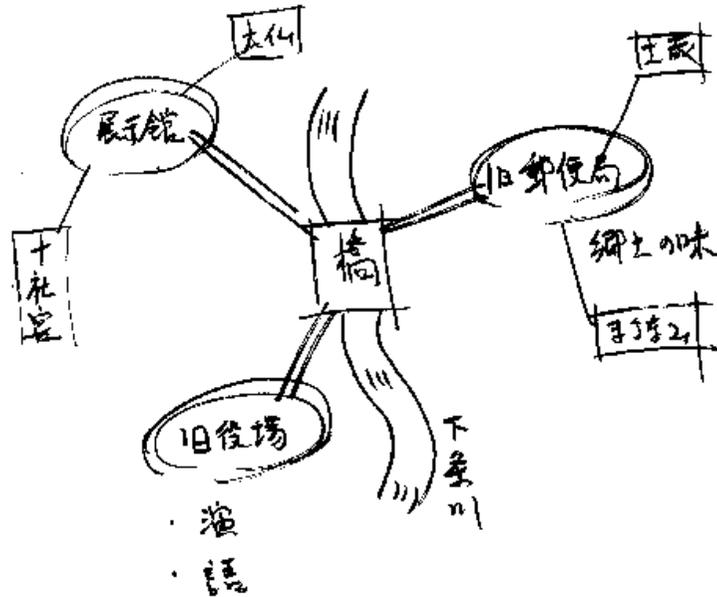
下乗川を中心に、「旧役場」、「町民展示館」、「旧郵便局」の三つを結び小杉の美意識や
味覚に触れてもらえる機会を作る。

構成

- 展示館：展示する
- 旧役場：演じる
- 旧郵便局：味わう

利用時間帯と回遊のイメージ

会場 → 展示 → 小杉の味 → 催事 → 小杉の味























富山新聞より引用

(25)

県内統合

2010年(平成22年)8月26日 (木曜日)

富山

土蔵に鍔絵の下絵

小杉中美術部、来月のフェス前に

射水の風景イメージ

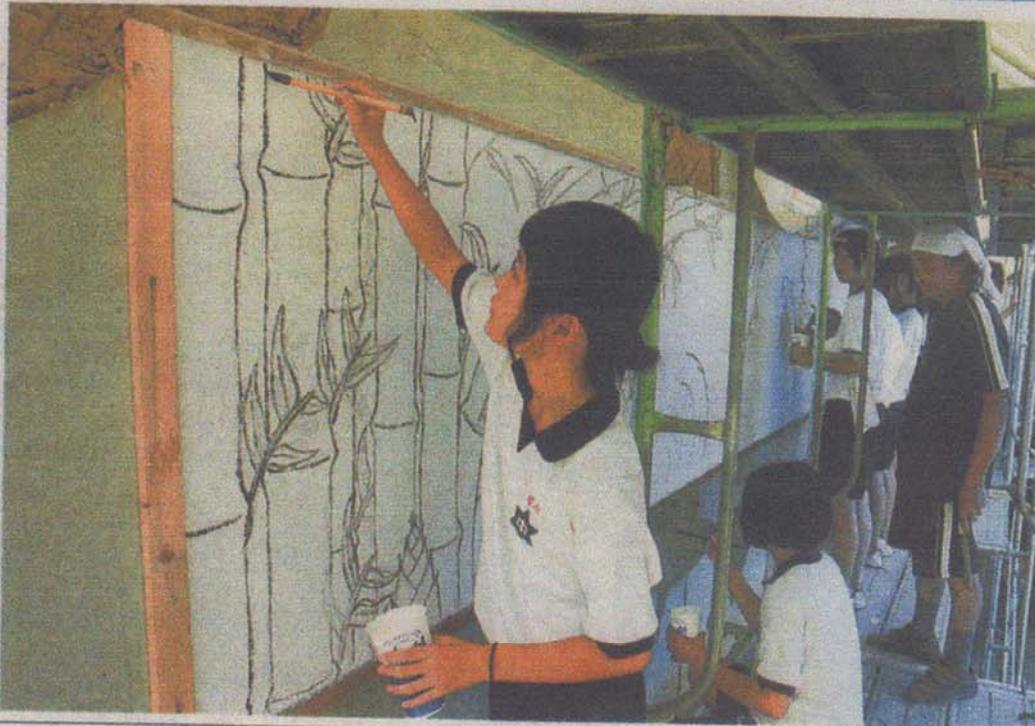
9月25、26日に射水日、同市戸破の森永酒
市で開かれる「2010 鍔絵フェスティバル」を前に、小杉中美術部の部員9人は25

を
描いた。

鍔絵フェスティバル
を「旧北陸道アートを

n小杉」と同時開催する同アート実行委員会
が郷土の伝統的建築技術に
触れてもらい、同フェスティバルに参加
してもらおうと企画した。

講師は鍔絵師石崎勝紀さん。南砺市が務めた。生徒は土蔵の外壁縦約1.5m、横約7mのスペースに、射水の風景をイメージしながら竹林、タケノコ、コイ、サギなどを鉛筆で書いた後、墨で描いた。



鍔絵の下絵を描く小杉中美術部の生徒

















北日本新聞から引用

北 日 本

(第3種郵便物認可)



社の「築山行事」の江戸時代の形態などを紹介。50人余りが熱心に聞き入っていた。特別展は10月17日まで。

■住民の力作も 高岡市の西部公民館まつりが25日、同市西部公民館と西部児童センターで始まった。同館で活動するサークルなどの作品展示や茶会があり、住民ら



びにぎわった。26日まで。日ごろの成果を発表し、住民らの親交を深める機会にしよう。横田、西条両校区の各種団体などで実行委員会をつくって開催。今回で37回目になる。

会場には着物をリメイクして仕立てた洋服や味わい深い陶芸作品、心温まる絵手紙など約300点が並び、写真。訪れた人は一つ一つの作品をじっくりと眺めていた。26日は民謡舞踊や小学生によるよさこい、マジックなどの舞台発表がある。

饅絵食談義で夏野市長（右奥）らに発表された大饅絵の図案



饅絵の名作を多数残した左官の名工、竹内源造（明治19、昭和17年）の出身地である射水市小杉地区で25日、2010饅絵フェスティバルが初開催された。同市戸破（小杉）の十社大神参集殿で開かれた饅絵食談義では、夏野市長と市議会や市商工会、地元地域振興会、学識経験者、県外の饅絵関係者ら約20人が饅絵を生かした地域活性化について話し合った。事務局が小杉地区で整備して（同市戸破）そばの下条川沿いの饅絵看板を紹介。ナマズをに設置する計画を報告し、図案描いた大饅絵（高さ2.5メートル、幅1メートル）を発表した。11月にも竹内源造記念館、夏野市長が「竹内源造の作品

饅絵生かしまち元気に

小杉で 有識者ら20人食談義

を発掘・保存し、どう活性化に生かすか、いろいろな知恵を聞きたい」と述べた。静岡県松崎町で饅絵を集めた「伊豆の長八美術館」運営に携わっている鈴木誠さん（49）＝同町＝や島根県の石州左官による饅絵を調査している渡部孝幸さん（60）＝同県大田市、全国の饅絵を撮影している写真家・藤田洋三さん（60）＝大分県別府市＝が「饅絵が縁で全国に交流が広がっている。源造の作品を孫子の代まで残してほしい」などと呼び掛けた。射水市は来年度から4年計画で竹内源造記念館の復元改修に取り組み。これに合わせ、砺波市の民家土蔵に残る源造の傑作「名越家の双龍」を移設する方向で交渉している。

出席者は地元食材の料理を味わいながら、饅絵文化について話し合った。

この日は饅絵制作の表演やギターデュオライブのほか、饅絵看板のスタンプリングがあった。最終日の26日は午前10時から竹内源造記念館で饅絵座談会を開く。フェスティバルは旧北陸道アートin小杉実行委員会主催、北日本新聞社など後援。











名越家の三連の土蔵に施された竹内源造の日本一巨大な双龍の鰻絵
(富山新聞より引用)

